

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401188		
法人名	医療法人 康整会		
事業所名	グループホーム ツーハーツ		
所在地	福岡市早良区次郎丸5丁目18番28号		
自己評価作成日	令和2年11月24日	評価結果確定日	令和3年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	2020/12/15		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

(こもれび)母体の医療機関以外の他協力医療機関との連携を図り、各ユニットに看護師を配置し、日々の健康管理から終末ケアまで対応している。利用者、ご家族にとって、安心できる場所になることを心掛けている。
 (せせらぎ)地域に密着した母体の医療機関だけでなく、他医療機関との連携を図り、各ユニットに看護師を配置し、日々の健康管理、終末ケアの対応を行い、利用者、ご家族にとって安心できる場所でありたいと心掛けている。
 (そよかぜ)おひとりおひとりに寄り添い、共に笑って過ごせる施設を目指している。母体である黒田整形外科医院と連携を図り、日々の健康管理を行い、早期発見・早期治療につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体に持つ、3ユニットの「グループホームツーハーツ」は、他医療機関との連携も強く、各ユニットに看護師が配置されているため、緊急時の対応や日常の健康管理も充実している。福岡市郊外に位置し、緑豊かな油山飯盛山を望み、四季折々に自然の風景が感じられる。校区のいきいきセンターにより運営される、医療や介護事業所の交流の場である「さわらまんかネット」に月1回参加し、情報提供により地域とのつながりを中心とした支援に取り組んでいる。地域に向けた体操教室を公民館で行ない、近隣の方の参加もあった。認知症サポーターの研修も今後行う予定である。コミュニティ主催の寸劇が小学生、先生、公民館館長などの協力の下行われ、見学にも行っている。今後も益々地域との連携が図られ、終の棲家としての存在感の発揮が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果							
自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の名札に携行し、いつでも確認できるようにし、唱和している。また、理念に基づいたケアの実践を行っている。	個々の名札に携行し、いつでも確認出来るようにし、唱和している。また、理念に基づいたケアの実践を行っている。	名札に理念を記載したカードを入れて携行。いつでも確認出来る。ユニットカンファレンスを月1回実施、理念に基づいたケアをしている。	開設時に作られた法人理念を記載したカードを、個々の名札に入れ携行しており、いつでも確認できる。一日1回の申し送り時に唱和し、各ユニットで理念に基づき話し合いを行う。入職時には施設長からのオリエンテーションで理念についても伝えている。各自理念に沿った個別目標をたて、振り返りを行い、より具体的な実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため、恒例行事の開催や職場体験、実習生の受け入れは出来なかった。	コロナのため、恒例行事の開催や職場体験、実習生の受け入れは出来なかった。	コロナの為、地域の方へは文書などで情報や活動をお伝えしている。	コロナ禍のなか恒例行事の開催、職場体験、実習生の受け入れはできなかった。地域の方へは文書などで情報、活動などを伝えている。昨年はツアーハーツ祭が行われ、家族、地域の方、PTA、民生委員の参加があり、田村太鼓の演奏などが行われた。ボランティアの歌、寸劇、ギター演奏又傾聴ボランティアの訪問もあった。「RUN伴」に参加し、利用者と一緒歩けるところまで歩きタスキを渡した。盛んになった。	今後も地域に対しての認知症啓もうや、介護に関する情報発信などをされることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為、地域運営推進会議の開催はなかったが、コロナ禍の中、利用者の生活状況等のお知らせに加え、意見や要望等のアンケートを郵送している。	コロナの為、地域運営推進会議の開催はなかったが、コロナ禍の中、利用者の生活状況等のお知らせに加え、意見や要望等のアンケートを郵送している。	コロナの為、運営推進会議は出来ないが、文書などで活動をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、会議の開催は出来ないが、通常参加して頂いていた地域の方や行政機関、ご家族の皆様へ入居者状況や行事報告を写真を加えて郵送でお知らせしている。	コロナ禍の中、会議の開催は出来ないが、通常参加して頂いていた地域の方や行政機関、ご家族の皆様へ入居者状況や行事報告を写真を加えて郵送でお知らせしている。	2月後半から、面会制限をしており、外部の方の出入りも禁止している。文書にて活動をお伝えしている。アンケート等の聞き取りもしている。	コロナ禍のなか会議の開催はできなかったが、家族、包括、自治会長、こども会会長、公民館、まんなかネット、社協、ケアプランセンターなどに入居者状況、行事報告、写真も送付している。お便りのなかにアンケートを入れ、聞き取りを行った。「さわらまんなかネット」に参加しネットワーク作りを心掛け現場へフィードバックしている。今後も意見をもらい、サービス向上に活かしていく。	通常は二か月1回会議を行い、家族も3〜5名の参加があるとの事、なお一層幅広く他の家族の参加を増やすため、曜日変更したり、行事と併せて運営推進会議を行ったり、工夫をしてみようだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの為今までのように密な連絡を取り合うことは出来ずいたが、アンケートや文章での意見交換が出来るように前述の行事報告等とともに書面を郵送している。	コロナの為今までのように密な連絡を取り合うことは出来ずいたが、アンケートや文章での意見交換が出来るように前述の行事報告等とともに書面を郵送している。	文書等にて、活動をお伝えしている。不明な点などは、担当の方へ聞き取りしている。	運営推進会議開催時は、案内状、議事録も送付している。コロナ禍のなか会議の開催は無かったが、入居状況、行事報告、アンケートの内容、報告なども送付している。メールにて書類の書き方、おむつサービスの利用について相談するなど、サービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や毎月行う身体拘束廃止委員会にて意見交換を行い、実践の中で拘束のないケアを行っている。	施設内研修や毎月行う身体拘束廃止委員会にて各部署との意見交換を行い、見守り重視のケアを実践している。	身体拘束はしていない。定期的な内部研修にて、スタッフ間で意見交換をしている。	内部研修にて年2〜3回、身体拘束、ヒヤリハットなどの研修を行っている。月1回は身体拘束廃止委員会、リスクマネジメントについて、リモート会議にて行っている。昨年は離脱があり、地域の方が見つけてくれた。現在、センサーを使用している利用者はいないが、施錠はしていない。スピーチロックについては気が付いた時に、その場で注意をしている	

R2.12自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)確定

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にてグループワークや事例検討会を行い、防止策を考案するとともに、職員のストレス対応にも努めている。	施設内研修にてグループワークや事例検討会を行い、防止策を考案するとともに、職員のストレス対応にも努めている。	内部研修や会議でも、事例検討などで、スタッフ間で意見交換をし、未然に防げている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの為、外部研修への参加は無いが、法連遵守会議やこれまで受けた研修等で理解を深めている。今年は成年後見制度を利用された方の手続きを、ご家族、弁護士の要望に沿ってお手伝いした。	コロナの為、外部研修への参加は無いが、内部研修や法連遵守会議でも取り上げ、理解を深めている。	内部研修やスタッフ間での意見交換などで理解を深めている。	現在成年後見制度を利用している方が1名いる。家族、弁護士の要望に沿い手伝いを行った。今、利用を進めている方が1名おり、職員間では共有している。内部研修にて職員も基本的な制度について理解はしている。パンフレットは常備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、運営規程を読み上げ、説明後、疑問不安の解決と理解、納得を得た後、契約して頂いている。	重要事項説明書、運営規程を読み上げ、説明後、疑問不安の解決と理解、納得を得た後、契約して頂いている。	契約の際には、必ず2名以上の職員で対応し、文書を読み上げ、疑問点はその場で解決している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リモート面会時や電話をかけた時、掛かってきた時に、家族との会話の中で聞き取りをし、要望があれば対応について検討している。	リモート面会時や電話をかけた時、掛かってきた時に、家族との会話の中で聞き取りをし、要望があれば対応について検討している。	意見箱や面会時の家族からの聞き取りや声かけを実施。要望があればすぐに対応するようにしている。	リモート面会時や電話をかけた時、かかってきたときに、意見、要望などを聞き取り、対応について早急に検討している。各ユニット入口に意見箱を設置している。	意見箱を設置しているとの事だが、事前にお便りなどに用紙を入れ記入して貰い、来所時に投函のみ、出来るような形で、意見を得やすい取り組みにしても良いのではないかと。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やユニットカンファレンスの中で意見交換を行い、月1回のツーツーハーツ運営会議において発表出来る機会を設けている。	グループホーム会議やユニットカンファレンスの中で意見交換を行い、月1回のツーツーハーツ運営会議において発表出来る機会を設けている。	月1回のグループホーム会議や、内部研修、ユニットカンファレンス等でスタッフ間の意見交換を行い、施設長も含め解決できるようにしている。	グループホーム会議やユニットカンファレンスの中で意見交換を行ない、月1回のツーツーハーツ運営会議において発表出来る機会がある。ポジショニング介護の方法、サービシリハの導入を提案し、反映させてもらった。個人目標を立て、年1~2回面談があり、話し合いの時間が持てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績、勤務状況、資格取得などの諸条件や、個々の資質向上により、勤務条件の向上が図られている。	勤務実績、勤務状況、資格取得などの諸条件や、個々の資質向上により、勤務条件の向上が図られている。	勤務条件や環境改善等、要望を聞き入れて頂けており、安定した給与水準も確保されている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関して、年齢、性別等による制限はない。資格取得を目指す職員に対し、休みの調整を行うなど支援体制がある。	職員採用に関して、年齢、性別等による制限はない。資格取得を目指す職員に対し、休みの調整を行うなど支援体制がある。	年齢・性別等の採用の可否はなく、働く意欲のある健康な方であれば、採用されている。経験を活かせる職場でスタッフ間でサポートしあいながら働いている。	30~60歳代までの職員がおり、各ユニットに男性2名。現在、ボロシャツ、ズボンの制服があり、今後、介護職と看護職の制服が異なるようになる。スタッフは勤務年数が長く、現場を熟知している。内部研修も充実し、外部研修の案内もあり、勉強の機会は持てる。経験を生かせる職場で、スタッフ間でサポートしあいながら働いている。	

R2.12自己・外部評価表(GHツアーツ)確定

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修のテーマに挙げられている。管理者は日々、入居者の人権が損なわれないよう指導している。	入居者に対する人権を尊重するため、言葉遣いなど、接遇に関しては徹底指導されている。	研修のテーマにもあるように、定期的な内部研修にてスタッフ間で意見交換が行われ、徹底指導されている。	入職時の研修により事業所理念と共に、人権、リスクマネジメント、ケアの指導などを施設長、副施設長が行う。月次の内部研修においてプライバシー保護、人権を尊重するためのモラルなどについて、意見交換を行ない、職員全員で人権に対し取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設が必要と認めた外部研修は、業務扱いで参加してもらっている。現場へのフィードバックも行い、個々のモチベーションも上がってきている。	施設が必要と認めた外部研修は、業務扱いで参加してもらい、受講料、交通費も法人が負担している。	月に一度、内部研修がある。外部研修への参加の補助もある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域運営推進会議では、他同業者にも出席してもらい、意見交換の場にもなっている。	地域運営推進会議に地域の人や包括支援センター、他同業者にも出席を促し、意見交換の場となっている。	他の同業者とのネットワーク作りを心掛け、意見交換の場があれば、参加し、現場へフィードバックしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、今までの生活習慣を優先してケアにあたり、不安のないよう見守り、傾聴している。	傾聴、受容の姿勢でご本人が望む生活に近づけ、新しい環境に馴染めるようにコミュニケーションを大切にしている。	入居前にご本人の情報をスタッフ間で共有し、その人らしさが感じられるような生活が出来るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、契約時にご家族の要望を取り入れて、不安のないようにスタッフ間の情報共有を行っている。	事前面談を行い、情報収集し、サービスを提供している。気付きがあれば、家族と連絡を取り、信頼関係構築に努めている。	事前面談の中で意向や思いを聞き取りし、スタッフ間で情報を共有し徐々に信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報、家族からの聞き取りにより、必要なケアを取り入れたサービス計画書を作成し、安心した生活を送って頂けるよう支援している。	入居前の情報収集や、事前面談にて必要とされる支援を見極め、対応している。	入居前の事前面談等で、意向や思いを聞き取り、計画書に反映させ、安心した生活が送られるよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが声掛けし、ご本人が出来ることを手伝って頂いている。	日常の関わりの中で、スタッフが声掛けし、ご本人が出来ることのお手伝いをさせていただくことなど、一緒に行っている。	ご本人が出来ること、役割を見つけ出し、コミュニケーションをとる時間を多くとり、信頼関係を築いていく。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状はコロナにより難しいが、面会時や電話等でご本人の近況を報告しご家族と情報を共有し、体調が良ければ外出の機会も持てるように支援している。	家族への手紙にて近況報告を行ったり、電話連絡にて要望を確認するなど心掛けている。	ご本人様の写真や動画などを添えて、定期的に近況をお伝えしている。家族からのご意見を聞き取りし、ケアに反映するようにしている。		

R2.12自己・外部評価表(GHツーツーエス)確定

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響でリモート面会ではあるが、家族との関わりを持てる場を提供している。面会時はスタッフが傍らに付き、フォローしている。日常的にご家族の話などを話題に入れて、入居前の環境なども話を伺いながら、馴染みの人や場所との思い出を引き出せるように努めている。	コロナにより、面会制限の中、リモート面会により家族との対話ができるよう支援している。	今は会えていないが、オンライン面会や、2m程度の距離をとった面会を実施している。	友人の訪問、行きつけの美容院の方が見える。美容院に行ったり、正月には日帰り帰宅したり、娘さんと一緒に温泉に行かれた方もいる。将棋の好きな方は職員が相手をした。踊りの先生だった方が催し物の時「松のみどり」を踊った又、夏祭りには職員に浴衣の着付けをしてくれた。現在コロナ禍のなか家族とはリモート面会を行ったり、12月からは部屋に仕切りを作り、短時間面会してもらった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者皆様がひとつの話題で盛り上げられるような、一体感のある時間を作るよう努めている。	各利用者様が大家族の一員であるという意識を持って、いつでも全員が顔を合わせられるよう支援している。	密を避けつつも、同じフロアにて会阿波や声が聞こえるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があれば、親身になって対応し、関係性を大切に継続できるように支援に努めている。	退居された方がいつでも訪問でき、楽しい思い出を語り合えるよう支援し、相談にも応じられる関係を保っている。	退居後も相談は可能である事を契約時、退居時にご説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人が何を望んでいるのかを把握し、少しでも気持ちに添った対応が出来るよう努めている。	コロナ禍にあっても家族との連携を密にし、本人の希望に沿えるよう努めている。	日々のコミュニケーションでは、対話を重視している。本人の思いに耳を傾け、意向の把握に努めている。	入居時は病院に行くことが多い、利用者宅を訪問することもある。管理者、ケアマネジャーが訪問し思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め初期のラフなプランを立てる。入居後、日々の会話の中から、本人が望んでいる事を把握し、気持ちに添えるように努め、職員間で情報を共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の環境や、本人のこだわりなど会話の中で把握し、多少でも近づいた環境に整えるよう努めている。	入居前の情報に基づき、暮らし方や、生活環境が急変しないよう努めている。	生活歴などを事前面談で聞き取りをしており、入居後も生活が急変しないように支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で観察し、声掛けを行い、出来る事は励ましながらしていただき、残存能力が維持出来るよう努めている。	可能な限り、残存能力を支援し、毎日の観察ケアの中で心身状態を把握し、他スタッフとの情報共有を行っている。	本人が出来ることは傍で見守り、自立を促せる部分はご自分でしてもらうようにしている。また、スタッフ間で情報を共有するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートを使い、課題とケアを考え善スタッフが携わるよう評価も含めて行っている。ご家族にもその旨を伝えて、希望を取り入れている。	モニタリングシートを使用し、課題とケアを考え、全スタッフがかわるよう努めている。ご家族にも、その旨を伝えて、希望を取り入れている。	月1回のユニットカンファレンスにて、スタッフより聞き取りを行い、本人や家族の要望を元に計画書を作成している。	入居者毎に担当者を定め、アセスメント、モニタリングを行い、ユニットカンファレンスにて聞き取り、医師、理学療法士などから助言を受け、本人、家族の要望を元にケアマネジャーが計画を作成する。プラン目標ごとに日々の実施をチェックし記録している。3か月ごとにモニタリングを行い、必要に応じてプランの見直しを行う。担当者会議を開催し、チームケアにて現状に即した介護計画を作成している。	

R2.12自己・外部評価表(GHツーツーエス)確定

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有は介護日誌と申し送りにて行い、カンファレンスで討議し実践へと計画に取り入れている。	情報共有は介護日誌と申し送りにて行い、カンファレンスで討議している。日々の観察・記録は重要である。	申し送りノートや、介護記録にて情報共有を行い、毎月のカンファレンスにて見直し、ケアに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があり、必要であれば母体の整形外科医院、専門医との連携を行っている。他、訪問歯科、訪問リハビリの個別対応も行っている。	ご家族や入居者の要望を取り入れた支援を行い、必要であれば母体の整形外科医院受診だけの対応ではなく、訪問歯科、訪問リハビリなど、個別の対応を行っている。	訪問によるリハビリや歯科診療、個別による対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナの為、ボランティアの受け入れは行われていない。	今は、コロナの為行事が無いので、スタッフが折り紙や塗り絵、体操などで楽しんでいただけるよう支援している。	現在、コロナで受け入れは出来ていないがボランティアや実習生受け入れにて、また、外部の方との交流を再開したい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は当施設の送迎車を使用する。受診に際しては、ご本人、ご家族希望のかかりつけ医やその他医療機関との調整を行い、安心して受診して頂ける体制を整えている。	本人、家族の希望をしっかりと聞き、安心して受診できる体制がある。家族での対応が困難な時は、施設で対応している。	本人、家族の希望があれば、かかりつけ医の受診を継続し日々の状況をお伝えする。	母体が病院であることもあり、かかりつけ医になる事が多いが、専門医療が必要な場合は、近隣医療機関を紹介するなど必要な措置を行う。母体からの訪問診療があり、24時間緊急時連絡体制を確保している。他科受診の際には施設の車で行き、病院で家族に引き継ぐこともある。医療情報は家族から聞き取り、職員間で共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や急変時は各ユニットの看護師が対応し、日勤帯以外でも常に連絡がとれる体制を整えている。	各ユニットに看護師が配置されており、健康状態を把握、報告、相談している。時間外も常に連絡が取れ、必要に応じて出勤している。	各ユニットに看護師が配置されており、急変時の対応をしている。時間外にも連絡がとれ、必要時には出勤している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は看護師または管理者が医師との連携をとりながら、医療機関との情報交換を行っている。	入退院時は看護師、管理者が医師や病院職員と情報交換をし、信頼関係の構築に努めている。	入退院時は管理者、ケアマネ、看護師が医療機関と連絡をとり、情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関への連携を図り、医師、ご家族、管理者、スタッフ間で話し合いの場を設けている。	施設で終末期を迎えたいとの希望があれば、説明を行い、支援を行っている。医療機関への連携を図り、医師、ご家族、施設職員との話し合いを行っている。	施設で出来る事を家族に伝え納得を頂いている。最期まで穏やかに過ごせるよう、医療と連携し支援している。	事業所で終末期を迎えたいとの希望があれば、家族と話し合いを行い事業所のできることを十分に説明する。重度化の際には家族、医師、看護師、施設長、職員などと再度話し合いの時を持ち、最期まで穏やかに過ごせるよう、医師と連携し支援している。出前講座で緊急時対応研修や看護師による研修を受けた。緊急連絡網もあり、看護師に24時間連絡ができる。	

R2.12自己・外部評価表(GHツーツーエス)確定

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて、防災センターの講師より緊急時の対応や救急蘇生の講習、訓練を受けている。	施設内研修にて、防災センターの講師より緊急時の対応等講習を受けている。	早良区防災センターより講師をお招きし、研修を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。消火活動や避難方法等を学んでいる。	防災訓練は年2回実施している。消火栓を使い、実際に放水するなど、全員が使えるように訓練している。	防災訓練を年2回実施している。わかりやすい位置に防災マニュアルや消防計画書を置いている。	防災訓練は年2回実施している。運営推進会議と一緒にやったことがある。夜間想定で通報手順の訓練を行ったり、消防署職員の立ち会いのもと、水消火器による訓練を行った。備蓄は米、水などを用意している。	公民館などで他の施設、事業所などの防災訓練の情報などを得て、参加されてみたらどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持ち、声掛けや対応を行っている。丁寧な言葉で語り掛け、常に尊厳を大切にしている。排泄時や入浴時はプライバシーの確保に注意し、ケアしている。	個々に応じた声掛けや、視線を合わせて傾聴を行い、人権を尊重した声掛けを行っている。施設内研修のカリキュラムにも取り入れている。	入浴、排泄時はプライバシーに配慮し実施している。内部研修でも意見交換している。	研修でも定期的にマナー、モラルなどについて取り上げている。日頃も個々に応じた声かけを行い、一人ひとりの人格を尊重している。個人情報保護についても学習しており、写真、ホームページへの掲載への利用も承諾を得て行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、表情や会話、行動で本人の意思を尊重し、自己決定できるよう支援している。	思いや希望が伝えやすいように日頃の対話を多くして、気楽に表現したり、自己決定の機会を多くもてるように支援している。	「はい」と返事をし、入居者が思った事を心から安心して言える環境づくりをしている。笑顔での声掛けを心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、その日の希望に沿って余暇時間等を過ごせるよう支援している。	個々ペースに合わせた余暇時間を過ごしている。レクリエーション参加も強制せず、歌、体操等自由参加に配慮している。	おひとりおひとりに合わせたケアを心掛けている。拒否があれば、対応を変え、柔軟に接するようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って、好みの物を選んで日常着を着てもらっている。理美容は本人の要望を聞いている。	日常着は本人の要望を取り入れて着用している。また、2カ月に1回は訪問美容を利用している。	ご家族にご本人が好む洋服などを季節ごとに持ってきて頂いている。理美容も希望時に実施出来ている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽を流し、落ち着いた雰囲気の中で、食事をしている。メニューの説明を行い、楽しみを持って頂いたり、味を訪ね評価して頂くなど、個々の趣向を大切にしている。	コロナという現況の中、テーブル席の配置を考慮しながら職員も同席、また介助が必要な方は介助後同席にて食事を頂いている。	音楽などを流し、落ち着いた中でゆくりと召し上げて頂いている。茶碗拭き、台拭きなどを手伝って頂いたり、おしゃべりしながら楽しく過ごして頂いている。	施設全体の集合厨房があり、そこから配食されている。炊飯、汁ものは事業所で作る。手伝える方には台拭き、配下膳などをしてもらったり、系列の施設と一緒に畑で枝豆、ピーマン、ナス、オクラなどを収穫することもある。ケーキ、たこ焼き、フルーチェ作りを一緒に行う。食事の時間はテレビを消し、音楽を流し、落ち着いた雰囲気の中で楽しく食事をしてもらっている。	

R2.12自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)確定

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から食思観察を行い、食べられないときは形態変更を行う等対応している。水分も日中摂れなかった場合は、夕方追加する等、スタッフ間で情報共有を行い対応している。	個々の状態を把握し、普段との食事、水分量の違いを記録に残し、その人が食べやすいように工夫している。スタッフ間で情報共有もやっている。	おひとりおひとりに合わせた食事形態にて提供している。STによる助言も頂き、入居者が美味しく召し上がれるよう介助している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが困難な方は、スタッフが洗浄液にてブラッシングを実施している。義歯を使用されている方は隔日で義歯洗浄を行っている。	食後は出来る限り口腔ケアを行っている。歯磨き困難な方はスタッフがブラッシングを行っている。義歯洗浄は隔日で行っている。	毎食後、スタッフが見守りや介助をしている。夕食後は義歯を洗浄剤にて洗っている。訪問歯科を利用することが出来る。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	医師の指示のもと、看護師が排便コントロールを行っている。座位の保持が可能な方は、トイレでの排便を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合ったオムツ使用や、トイレの声掛けを行っている。座位が保てる方はトイレでの排便支援を行っている。出来るだけトイレで排泄し、気持ちよく過ごしていただけるように支援している。	排泄チェック表などで、こちらから声かけを行ったり、排泄介助に入り、ケアしている。トイレ誘導の際には立ち上がりなど出来る所は自立を促している。	入居者それぞれに排泄チェック表があり、一人ひとりの排泄パターンを職員全員で把握し、時間を見て声かけをすることで汚染が少なくなったり、パッドの大きさを変更したりしている。座位が保てる方はトイレでの排泄し、気持ちよく過ごせるように支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便観察は毎日行い、水分も十分な量(1.5ℓ/日)補給されるようチェックを行っている。便秘の際は、医師の処方にて緩下剤を服薬して頂き対応。	排泄チェック表を用い、看護師と相談しながら個々に応じた支援を心掛けている。水分チェックも行っており、便秘の方には医師による緩下剤処方あり。	定期的な水分補給と、出来る運動を便秘予防の基本とし、便秘の方には主治医により下剤処方されている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際、声掛けして拒否があった場合は、一人ひとりの希望に沿うよう、入浴時間や入浴日を変更する等、個別に柔軟に対応を行っている。	声掛けを行い、拒否のあったときは他のスタッフが声掛けをするが、さらに拒否があれば翌日へ変更している。午前中の入浴が難しいれば、午後へ移行するなど、個別に対応している。	出来るだけ個々にタイミングを合わせて声掛けし、入浴して頂いている。拒否されることなく、出来ている。	概ね一人週2回、一日2~3人入浴を行う。月曜日から日曜日まで午前中に対応している。入浴日以外に対応することもある。入浴時には看護師に皮膚観察をしてもらう。季節に合わせてゆずの香りを楽しんでもらったり、コミュニケーションの大事な場所としている。「浴槽付きベッド」が1台あり寝たきりの方も入浴できるようになった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は本人の生活スタイルに合わせて個別対応している。入床されない場合は、スタッフと話し過ごして頂く等の支援を行っている。	入眠時間は個別対応している。午睡をされない方はお部屋かフロアにて自由に過ごされている。楽しく談話して過ごせるように支援している。	日中、横になって頂く時間とっている。希望されない方はフロアにて思い思いの時間を過ごされている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の確認がすぐ出来るように、薬剤情報を活用している。処方薬について効能や副作用の有無を看護師からスタッフへ伝えている。	薬剤情報はいつでもすぐ見える所に保管している。服薬時も本人の飲み込みまで確認し、飲み忘れのないようにしている。看護師とも連携し、状況の変化に対応している。	薬剤情報は分かり易く保管、更新している。処方日には薬剤師と情報交換し、日々の様子をお伝えしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること、嗜好に合わせ、洗濯物たたみ等のお手伝いや、ボール遊び、歌、スタッフとの談話も含め、楽しみごとや気分転換の支援を行っている。	出来ることのお手伝いに対して、スタッフより感謝の言葉を伝えることで、その方の喜びにもなる。日々の会話などから、アセスメントプランに添いながら、得意な事なるべくしていただけるように支援している。	役割・お手伝いを通してお礼を伝え、遣り甲斐や自信を持って頂いたり、レクリエーション等で楽しみを感じて頂けるよう工夫している。		

R2.12自己・外部評価表(GHツーツーエス)確定

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、外出は控えている。	コロナ禍では外出できないが、暑さ寒さを肌で感じて頂きたく、時間は短くても外気浴を取り入れている。	コロナの為、なかなか外出レクは出来ていないが、施設の周囲の散歩にて外気を感じて頂いている。	コロナ禍の中、外出は控えているが、事業所周圍の散歩にて外気を感じてもらっている。今年には事業所内に神社を作った。昨年までは年に数回は外出レクがあり、飯盛神社にドライブ、春は花見、福岡タワーに行ったり、くるくる寿司、珈琲を楽しんだり、たい焼きを食べに行くなど外出、外食レクを行なった。家族と個別に外出も行った。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う、意思決定が出来る方はいない。必要な物、希望の物があればご家族に差し入れにて対応して頂く。	お金を使う意思決定が出来る方はいない。必要な物、希望の物があれば、家族の了解を得て職員が飲み物等の嗜好品を買いに行っている。	入居者が金銭を所持したり、施設が預かることはしていない。移動売店や移動パン屋を利用した場合は、購入費を施設が立替で支払っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いたときのお礼の電話など、家族の了承のもと何時でも電話できるようにしている。	本人、家族の希望があれば、リモート面会を行っている。自らの意志で手紙を書けないため、スタッフが近況報告のメッセージカードを送っている。	ご本人様からの希望はないが、オンライン面会の立ち会いや、手紙が届いた際は一緒に読んだりしている。写真や動画のやり取りをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには温度計があり、直接エアコン送風が来ないように管理している。共用部分には季節の飾りを作成し楽しんでいる。	清潔を保ち、換気や湿度に十分配慮し空気清浄機を使用している。フロアには心地良い音楽が流れ、ゆったりとした気分で過ごしていただけるよう心掛けている。	湿度計やエアコン等で空調を管理し、環境づくりをしている。花や壁飾り等で季節を感じて頂いている。	清潔を保ち、換気、湿度に十分配慮し空気清浄機を利用している。フロアには利用者、職員と一緒に作成したクリスマスの飾りつけがされ、楽しい雰囲気であふれている。穏やかな音楽が流れ、柔らかい日差しの中、ゆったりとした時間が流れている。リビングには、大きなテレビがあり、時代劇、紅白歌合戦などを楽しむ。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは、気の合う方同士で近くに座って頂き、居室との行き来は、いつでも出来るようにしている。	フロアでは、気が合いそうな方同士が近くになれる座席の配置をしている。ソファを配置し、自席以外にも過ごせる場所を設けている。	密を避け、寂しくならないよう、声が聞こえるよう、顔が見えるように席を配置し工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や、ご家族の写真や、思い出の品を飾って安心して過ごせる空間をつくっている。	馴染みの家具を入居時に持ち込み、ご家族の写真や思い出の品を飾って安心して過ごせる居室となっている。	生活してきたものや、服などを、入居時に持参して頂き、なじみのある環境づくりを工夫している。	各部屋に加湿器がある。カーテンはそれぞれ好みの物を使用している。馴染みの鏡台や、家族の写真を飾り、安心して過ごせる環境づくりをしている。仏壇を置かれている方もいる。各自の部屋の衣服交換は家族が対応し、すっきりと整理整頓がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には個々の名札があり、トイレも分かり易い場所にあるので、自由に一人で行き来することが出来る。	居室入口には、名札があり、トイレも分かり易い場所があり、自由に行き来することが出来る。ホールを中心とした各居室で、本人らしく自由に行動していただいている。	居室入口、トイレ、浴室などに表示をつけ、分かり易いようにしている。手すりをつたって、ゆっくりでも歩いていけるよう支援している。		